

KITAURA

Culture + Innovation

大いなる夢咲かせます。

「変化の未来」に挑戦します。

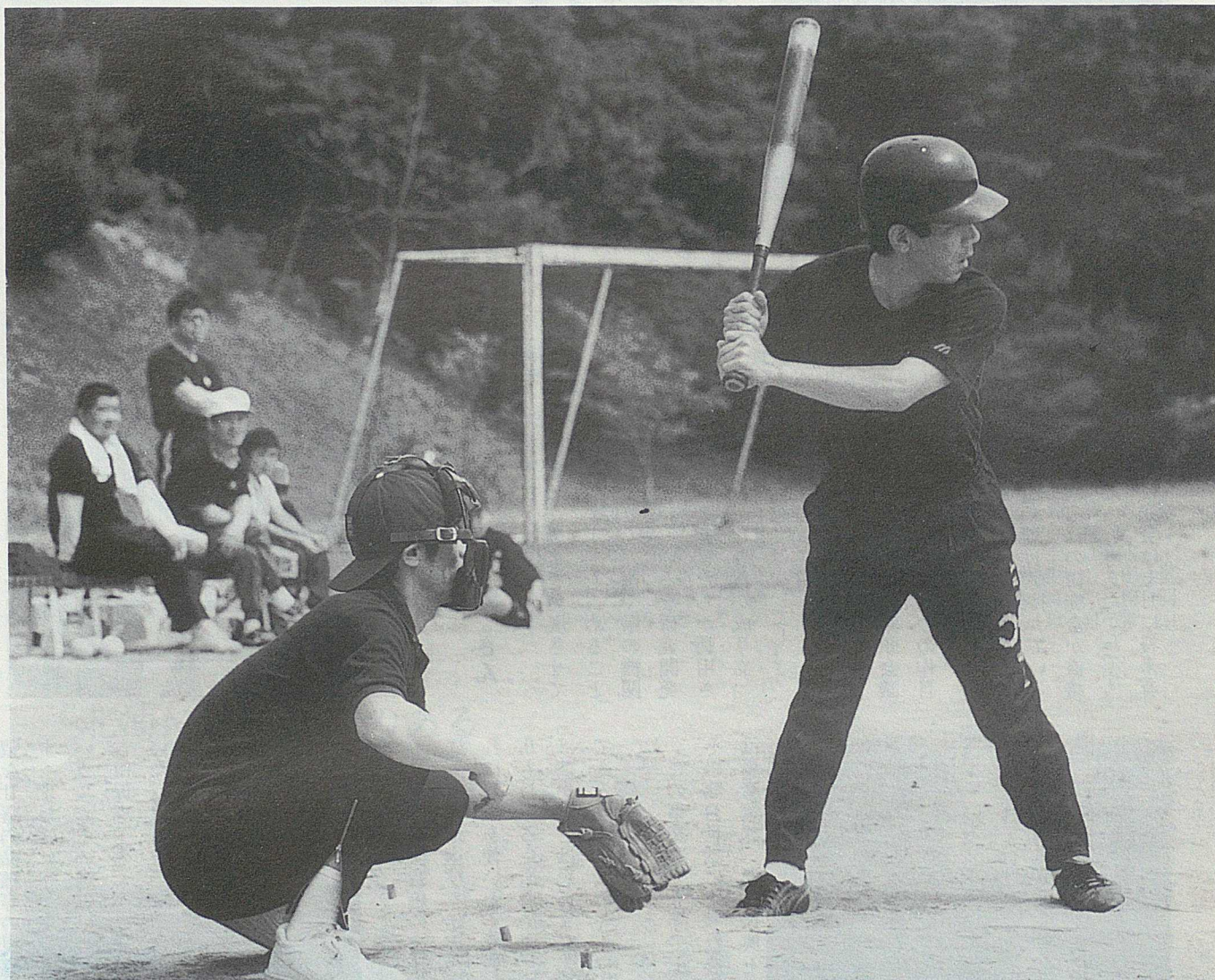
「大地の息吹」に価値を創造します。

「明日の世代」にふれあいを手わたします。

平成8年7月19日（金）発行 No.351

広報きたうら

茨城県行方郡北浦村



よし、打つぞ！

〈お父さんソフトボール大会にて〉

農林水産省農業研究センター新規採用研究員農村実地研修

北浦農業を体験

2・3・4・5

虹工房	北浦二住生活（1）	6
さわやか健康	寺内理枝さん	7
文化と学習	近代劇「泥かぶら」が上演されました	8・9
むらの話題	メロン刈りで都市住民と交流	10・11
婦人農業士に井川清美さん・ホームヘルパーに矢口元子さん		12
心身障害者にタクシー料金を助成します		13
お知らせ		14

北浦農業を体験

農家のたくましさを これからの研究の糧に



庄司 信一さん

腰が痛くなった農家研修を研究活動の参考にして下さい。活躍を期待します。



浅井 元郎さん

私が生まれた仙台平野は、奥羽山脈に発する大河に潤された水田地帯です。そして学生時代を過ごした京都盆地は、古い街のまわりを近郊野菜産地が囲んでいます。行方台地にはなだらかな畑が広がり、その裾をうように谷津田が連なり、北浦湖岸に沿う低地にハス田が並びます。その風景は私には異質で新鮮でした。私は、中根で甘藷と米、セリを作る庄司さんの家にお世話になりました。朝食の後ご夫婦とともに甘藷の苗を切り、日暮れまで植えました。畑の畝に苗を植えながら行つては戻り、青空を何度も見上げました。ひんやりとした風の吹き出す頃雑木林に陽が沈みます。家ではご隠居が薪を割り、お風呂を焚きます。食膳を庭先で採れた野菜が彩ります。ご家族や村の方々とのにぎやかな語らいに夜が更けていきました。

畑の景色にもなじみ、畑や柿の木、納屋、農具のそれぞれに、北浦で暮らす汗と知恵が重ねられていることが分かってきました。家族で働き、村の一員として暮らすことには、街の生活では得がたい良さがあります。北浦で生きる方々のたくましさを農学者として私の糧とすべく、この先も何度かおじやましたいと思っています。

北浦には将来性のある 農業が育っている



斉藤 守さんと
奥さんの節子さん

私もいい経験をさせてもらいました。ますますの活躍を期待しています。



堀江 達哉さん

私にも農業実習の経験はありますが、農家となると話が違います。何せ、作物という商品を素人が扱うのです。農家も忙しいのに迷惑だろうなと思うと、研修が近づくにつれ緊張感が強まってきました。しかし斉藤さんにはそれがわかったのか「遠慮せず気軽にやって下さい」と最初におっしゃって下さいました。今回の研修で幸運だったのは、収穫から出荷までの一貫した作業を体験できたことです。それぞれの作業の結びつきを実感するためには、そうした体験が重要だと感じました。その中で一番気に入ったのは肥料作りです。斉藤さんの作るEM菌の堆肥は、おもしろい匂いがするのです。この堆肥は連作障害を防ぐそうで、年四〜五回作付けには欠かせないのだそうです。チンゲンサイは比較的安定した作物で、労働も集中せず一年を通して収入があるのが特徴だと思います。近年農業では、後継者不足が大きな問題となっています。これも農業が安定収入を得られ、かつ休日を定期的に取れるようになれば変わってくると思います。斉藤さんをはじめ、北浦ではそういう基盤を持った農家が多いのではないかと感じています。

望な甘藷の品種等の視察も決めたようです。また、レンコン農家にとって頭の痛いカルガモの被害についても、研修生の吉田保志子さんが今後研究に取り組んでいただけるというお話です。その成果を心待ちにしたいと思います。

北浦農業を体験

つくば市にある農林水産省農業研究センターは、毎年北浦村で新規採用研究員の農村実地研修を行っています。今年で7回めの研修は6月20日から24日の日程で行われました。

4名の研修生は役場で説明を受けてから、それぞれの受入れ農家へ向かいました。その後3泊4日の間ホームステイの形をとりながら、実際の農作業を体験しました。最初はお互いに戸惑いぎみでしたが、最後の夜の交流会までにはすっかり打ち解け、まるで家族の一員のような様子でした。

研修生の皆さんは北浦村の農家の生活や経営を体験されたわけですが、この貴重な研修を今後の研究に生かし、わが国の農業技術の発展に役立てていただきたいと思います。



北浦村郷土会会長
前田 恵助さん

先進技術や情報は、農業を進展させていくうえで大きなウエイトを占めることは言うまでもありません。国や県の機関の研究員によって、いろいろな研究開発が展開され、その成果を私たちが利用させていただいているから農業が成り立っていると言っても過言ではないでしょう。こういう表現でお許しを願えば、農業研究センターの研究員の「卵たち」を農家実習という形で、毎年私たち郷土会が受け入れています。今回は四つの特別研究会（メロン、甘藷、青梗菜、レンコン）に受け入れ農家の人選をお願いしました。農業研究センターが持っている技術や情報を、それぞれの研究会が直接役立てていただきたいと考えたからです。その結果、甘藷研究会は七月に将来有

役場産業課、農業振興センター、そして受け入れて下さった農家の方々に感謝を申し上げます。この事業を通じて農業研究センターとの交流を深めつつ、持っているノウハウを北浦に取り入れて行ければと考えています。それが、未来を切り開く可能性を秘めた種子を、北浦の台地にまくことだと信じて。

農業研究センターの ノウハウを北浦に

研修生と受け入れ農家の皆さん

浅井 元郎さん → 庄司 信一さん（中根）甘藷、セリなど
堀江 達哉さん → 斉藤 守さん（行戸）チンゲンサイ、甘藷など
中山 尊登さん → 河野 豊さん（小貫）メロン、イチゴなど
吉田 保志子さん → 大平 和久さん（吉川）葉しょうが、レンコンなど

研修生に聞いてみました

研修前

北浦村の印象は？

- ◆茨城県でもトップレベルの農業地域と聞いていた。
- ◆広くない村に、多様な作物が栽培されているというイメージだった。
- ♥純農村地帯で水田、畑にさまざまな作物が作付けされている。
- ♣近郊の農村で、他と同じように後継者不足の悩みもあるが、農業を通して村の活性化に取り組んでいる。

農業をどう思う？

- ◆収入が安定せず、他産業より経験が重要。経営主によっては高収入も可能。まさに自由業というイメージ。
- ◆それぞれの土地で、さまざまな制約のもとで汗を流して生活している。
- ♥大規模化、効率化でどんどん「工業的」な方向へ進んでいる。
- ♣マスコミを通して、農業に対する暗いイメージを持っていた。自分がどう役に立てるか不安だった。

農家をどう思う？

- ◆零細で、企業的な経営からは程遠く、封建的、重労働といった悪いイメージと、家庭的、自由な経営、強い地域の結びつきといった良いイメージの2つを感じていた。
- ◆家族労働、多世代同居は、人間の営みを伝え続けるといって何ものにも代えがたい。
- ♥農繁期と農閑期の作業量の差が大きい。
- ♣就業人口の減少、高齢化、後継者不足など他、農産物価格の低迷もあり大変だ。

村に対して一言

- ◆ひとつの農作物が永久的に高価で安定することはない。家族内、地域内での複合を考えるべき。市場戦略として、ブランドやイメージを定着させ、一元的、計画的に集出荷するシステムを作ってはどうか。
- ◆農家（女性を含めて）が外部に飛び出し、また他の地域の人を積極的に受け入れることが活性化につながると思う。

研修後

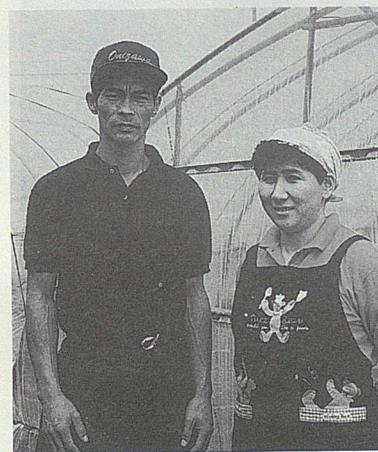
- ◆農家の熱心さは、私が知っている中でも1位か2位。鉄頭会議のメンバーは、まさに実業家的な考え方。研究会の存在にも感心。
- ◆台地と谷津田を見て、多品目産地であることに納得した。
- ♥農家の年齢が若く活気がある。地形は起伏が多く、美しい風景がある。
- ♣若い担い手を中心となり、農業で村を盛り上げようと努力している。

- ◆農家は理想や構想を持っているが、実行するには制約が多い。一人一人の農家の力には限界がある。
- ◆北浦村も同じ。
- ♥出荷の調整作業は、共同ではないので負担が大きい。天候などの自然現象に左右される。減農薬にも取り組んでいる。
- ♣農作物に寒気の影響があると聞いていたが、実際目のあたりにして、農業は自然と密着したものであることを実感。

- ◆経営も準企業的で、大規模経営や雇用する農家も増えていると知り、良いイメージの方が強まった。一般にもアピールすれば。
- ◆代えがたいという気持ちを強くした。
- ♥みんなが経営者。土地に密着した代々の温かいつながりがある。ただし、女性が忙しい。働いているわりに公的立場があいまい。
- ♣後継者問題も少なく、家族で仕事をうまく進めている。若い方の積極性を感じた。

- ♥北浦、霞ヶ浦周辺の自然環境の悪化は、近年著しい。農地の風食・水食、地力の低下の一つになっているのかも知れない。農家にできることは限られるので、行政の力が必要だと思う。
- ♣村の活性化のための企画でも、消費者と生産者の双方で満足がいくとは限らない。参加する人が経済的、時間的に負担になると積極的な協力は得られないと思う。

農業の現場に届くように エールを送り続けたい

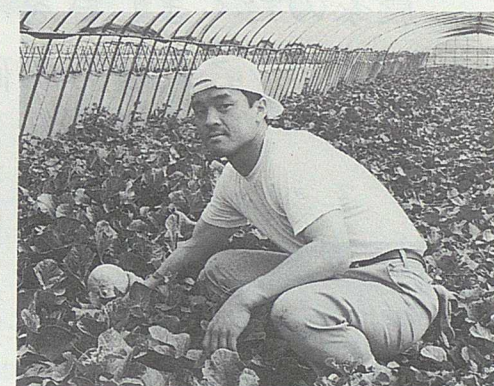


河野 豊さんと
奥さんの都志美さん

暑い季節なので、ハウスの
中は大変だったと思います。
がんばって下さい。

春の寒気のせいでメロンの生育が遅れているそうです。収穫が始まらず、忙しい時期にお手伝いすることができませんでした。それでも収穫前の大事な時期に、ハウスの温度管理等の仕事を経験することができ、自然と密着した農業のむずかしさと魅力を少しでも体験できたのはよかったと思っています。

今回の研修で実際に農家の生活の中に入り、そのリズムを感じる事ができました。私は研究者としての道を歩き始めたところですが、この体験を心に留めていきたいと思っています。そして北浦村の、さらには日本の農業に陰ながらエールを送り続け、それが農業の現場まで届くよう研究に励んでいきたいと考えています。

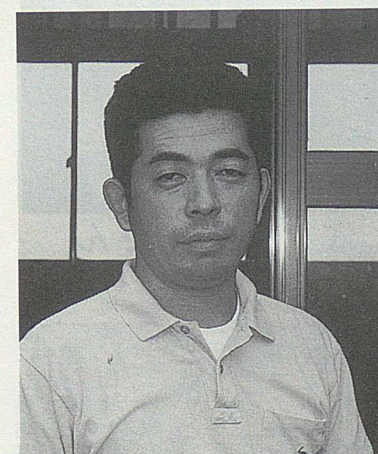


中山 尊登さん

私は北海道大で農芸化学を専攻しましたが、農作業の経験は皆無に等しく、家庭菜園程度のものでした。以前から農家での作業を体験してみたいと考えていたので、今回の研修は願ってもない機会でした。

受け入れて下さった河野さんはメロン農家で、五十棟近いハウスに収穫をひかえたメロンがたくさん実っていました。収穫、出荷が始まると奥様、ご両親ともに朝早くから夜まで忙しいとのことでしたが、今年は

どんな農産物にも 心をこめて送り出す農家がいる



大平和久さん

農家の実態を見てもらえてよかったと思います。この経験を研究に生かして下さい。

ことができました。また、大平さんが加入しているレンコン研究会では、試験圃場を持つなど活発な活動が行われており、農業にける熱意を感じました。私は鳥の生態が専門なので、カモの食害について聞かれたのですが、満足に答えられず残念な思いをしました。収穫の時期には食害の様子を見学とお手伝い（逆にじやまになるとありますが）させてくださるそうなので、今から楽しみにしています。どの農産物にも心をこめて生産し、送り出した農家の方がいることを実感したことを忘れないようにし、これからの研究に取り組んでいきたいと思っています。四日間の研修は、来る前に「がまん」と思ったことが恥ずかしくなるほどすばらしい経験でした。



吉田 保志子さん

日程表に「農村実地研修」とあるのを見た時、「一週間のがまん」と思っていました。私が育ったのは埼玉県南部の郊外で、周辺には畑が多く、朝早くから農作業に忙しいような様子は見てはいましたが、農業の経験は簡単な実習程度、まして農家の生活となると未知のものでした。心細い初日でしたが、大平さんご一家に暖かく迎えていただき、四日間にわたって水かけ、収穫、調整、箱詰め、出荷と一通り体験する

やはり不安でした。この春に私は都心から少し離れ、私鉄沿線の郊外地に事務所を移転したのです。それまでの千代田区六番町という所は、都心中の都心で、東京駅や新宿、渋谷、六本木などほとんどの場所に十五分足らずで行けるような場所でした。そこに十年ほど事務所を置いていたが、仕事上の取引先や経済状況も変わったこと、そしてなによりも強気の大家さんが、周囲の家賃値下がりもどく風と、家賃交渉にに応じてくれなかったことが理由でした。

■ 都心を離れて

今月号は、村の皆さまに私の引越しのご挨拶をさせていただくためにこんなことを書いています。もちろんありません。近頃気になる傾向が身の廻りにはじめているからなのです。デザインや企業

画の仕事に携わっている者にとって都心は「仕事がある場所」という思いが根強くあり、そこから離れることは職業変えを覚悟するくらいだと恐れていたからです。たしかに今の事務所の近辺はビルらしき建物はなく、民家と庭木の緑に囲まれた環境で、駅周辺も都心ほどの雑踏はありません。昼食に行きたくないような飲食店の数も激減です。通りで見かけるのは、同世代のサラリーマン諸氏の顔の代わりに小学生や中学生たちです。「忙しき仕事」のイメージはまったくありません。いわゆる刺激もほとんどないのです。しかしそれともいふ慣れてきました。自宅との距離も半分以上に近くなりました。自らの物書き部屋を少し広くしてここへもってきたようなものです。そういえば、仕事仲間であり畏友のY氏が初めて訪てきたとき「ここは事務所というより隠れ家だね」とニヤニヤしながら言っていたのを思い出します。そういう意味で私は今「二住生活」の真似事をしているのかもしれない。

■ 縮みつつある距離と時間

仕事にはほとんど変化はありませんでした。増えもしませんが、減るという兆候も幸い今のところありません。「都心に仕事がある」などというのは幻想にしかすぎなかったようにも思います。時代は大きく、身近なところで変わっています。かつての同じ仕事場の後輩で、今水戸でデザインの仕事をしている日君は、最近横浜の取引先と多く仕事

をしていると言っていました。日常のやり取りはほとんどパソコンによる画像通信で済み、一日かけて横浜に出向くということはあまりないそうです。日君はこんなことも言っていました。「事業所の部屋から一本の電話線が日本中の、いや世界中の場所につながっている。連絡はもちろん、ここから居ながらにして仕事の処理も瞬時にできる。もう横浜の仲間もニューヨークの相手も隣の部屋にいるような感じです」と。私には、仕事上の理由だけで都市や場所の価値を云々する時代ではもうありませんよ、という風に聞こえました。

■ 北浦村でも以前から

本業とは別に東京に本社を置く商社とファックス通信を使って、永く外国語翻訳の仕事をやっている方が北浦村におられると聞きました。新しい技術が一般の仕事や生活の一部になるまで浸透するには、やはり時間がかかりそうです。ワープロやファックス通信が出てきたときもそうでした。しかしその方は、いち早くそれを使った。中に取り入れられ、自分の道具として使いなされたのでしょう。その方と比較すると、今さらパソコン通信に驚き、時代は変わったなどと言っている自分がなんだか恥ずかしい思いです。

■ 職場の住環境化

それはともかく、技術の浸透がこれまでに以上に速くなると、仕事場の選定とい

う理由だけで考えるならば、東京は東京である必要はなく、水戸さえも水戸である必要がなくなるスピードもますます速くなるように思います。それは一部の職業にとつてはどの都市、どの地域についてもいえることです。そうすると、今まで「仕事場だから」と我慢してきたその職場や周辺の環境にも目が行きはじめます。「たしかに便利かもしれないが、なぜこんなに緑の少ない、人ばかり多い所で仕事をせねばならないのか」という疑問に答えがなくなっているのです。これからは人々が住に求めたと同じ水準の環境を職場にも求める、あるいは都心では住に求めた水準で移して、環境を整えるという傾向も出はじめるでしょう。

■ 北浦村の埋もれた可能性

こうした傾向や状況を、村の将来にあてはめ、「職住の至近距離的良環境の場」として北浦村を見ると、北浦村には大きな可能性がまだ埋もれているような気がします。ただし、いくつかの条件を整備しておく必要はあると思います。この辺りのことを来月号で探ってみる予定です。

標題にあげた「二住生活」は建築家の松田力氏の著作「都会に生き、山に暮らす」(二玄社刊)から引用させていただきました。

さわやか



健康

私の健康法

二人で人生を歩む

——食改進総会体験発表より——

私は健康にはほど遠く、体力もなく、村の検診でも貧血という診断を受けていました。そして特別症状もないので、健康には無関心でした。ところが三年前、村の検診で主人が糖尿病になる可能性が高いという結果が出たのです。血圧を下げ、体重を減らすには、食生活と運動が大切だと保健婦さんからの指導を受けました。

まず食生活では、ご飯を二膳食べていたのを一膳にすることしかできませんでした。主人の仕事は旅行業なので外食が多く、時間も不規則だったからです。また、たばこは吸いませんが甘いものが好きで、十時と三時のおやつは欠かせません。自分でおいしいお菓子があつたと買ってくるのです。それも楽しみの一つなのだろうと思うと止めることができず、せいぜい量を控えてもらう程度でした。

運動は誰にもできることということで、一日四十〜五十歩歩くようにしました。とは言っても仕事の関係で毎日というわけにもいかず、合間をみて朝夕にという感じでした。それも冬の寒い朝には、ほとんどお休みという状態でした。

こんなペースでも主人の体重は5kg減り、血圧も下がりました。そして何よりも良かったのは、主人と一緒に歩いていたら、私の貧血がいつの間にか治り体力もついたことです。おつき合いで始めたのですが、今では主人がいなくても一人で歩いているほどです。これからも同行二人の笠を持って歩く巡礼のように、二人で人生を歩いて行きたいと思っています。



寺内理枝さん
(繁昌)

一言アドバイス

夏バテ予防と食生活

下して、どうしても食欲が衰えがちです。しかし、食べたくないからといって食べなかったり、冷たいものばかりで口をまぎらすと、ますます体力が衰えて人より早く夏バテしてしまいます。

バランスのよい食事はもちろんですが、少ない量でも効率的に食べることが最大のポイントです。麺にしてもご飯にしてもおかずなしで済ませがちですが、五目そばやちらし寿司にすればおかずも一緒に食べられ、主食もセーブできます。また油を上手に使えば、かさを減らしたり緑黄色野菜の吸収を高めたりできます。胃酸の分泌を促すために香辛料や香味野菜、酢などの脇役をフルに活用しましょう。ただし、甘味の強いものは食欲を衰えさせ、ビタミンBの消耗を高めて疲れを早めるので注意して下さい。

各種予防接種・健診等スケジュール

事業名	月 日	受付時間	会 場	対 象
健康づくり 指導車活動	7月22日	AM10:00～ PM3:00	繁昌学習センター	一 般
講 演 会	25日	PM 1:00～ 1:30	中央公民館	胃・大腸がん検診 要精密検査者等
一般健康相談	26日	PM 1:30～ 2:30	母子健康センター	一 般
はしか(麻疹)	8月6日	PM 1:30～ 2:30	母子健康センター	H6.10.1～ 7.7.31生
3歳児健診	7日	PM 1:00～ 1:30	母子健康センター	H5.5.1～ 5.7.31生
老人健康相談	8日	AM10:00～ 正午	行戸第3公民館	行 戸 シルバークラブ
3種混合	9日	PM 1:30～ 2:30	母子健康センター	H4.6.1～ 5.5.31生

※ 結核・肺がん・基本健診を7月22日～8月1日(7月25・26・27・28日は除く)に実施いたします。チラシ等を参照し、受付時間や会場をご確認のうえ健診を受けてください。

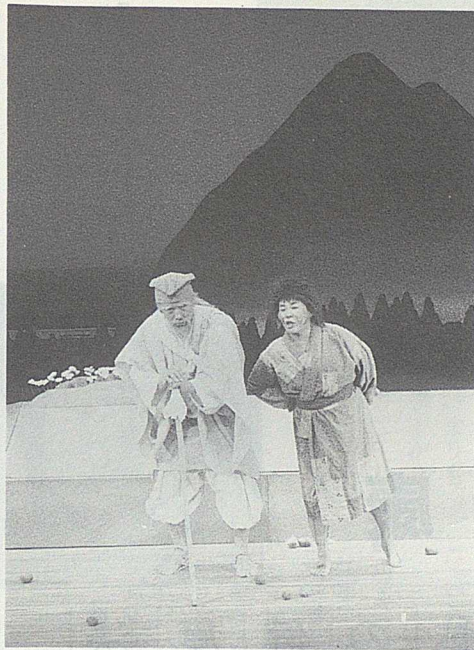
文化学習

近代劇「泥かぶら」が上演されました

六月十一日に北浦村文化会館において、近代劇「泥かぶら」が上演されました。公演は午前、午後の二回行われ、小学校四年生から六年生、中学生全学年ののべ九百四十名が観賞しました。

主人公の少女は醜いために人々の嘲笑のまとなり、毎日石を投げられたり唾を吐きかけられたりしていました。そのために少女の心はすさみ、粗野で荒々しい子供になっていきました。しかし、旅の老法師の言葉「自分の顔を恥じないこと。どんな時でもにっこり笑うこと。人の身になって思うこと」を実践して美しい顔になろうとします。そして、いつの間にか美しい心を持つようになるというお話でした。

心の教育が大切な小・中学生にとって、得るものが多かったのではないのでしょうか。



きたうら

根本かほる 選

風鈴や分福茶釜みておりぬ	山田健太
旅好きな花袋の供は夏帽子	川又浩
煩惱を連れて歩いて夏の寺	羽生まき
茂林寺にその昔あり苔の花	石上ちか子
何くわぬ顔して狸青葉風	日下利子
口ささぬくせ身について蓼	藤原静子
咲き終えたつじに風のなまぬるし	金井クニ江
白い靴過去に追われて旅に出る	土子文江
茂林寺のたぬきに化かされ緑風	飯島秀子
玉石ふむ新緑の杜ふかく	仲居いみ子
とぼけたるたぬきの顔に風薫る	高橋敏
葉桜は沼の重みの下にあり	久保博光
青葉風群馬に多き道標	高野三千春
万緑や茶釜の寺の水うまし	根本かほる

緑したたる群馬路へ日帰り
吟行に行ってきました。

ブルガリア国立

ソフィア少年少女合唱団

指揮：フリスト・ネジャルコフ 歓迎出演：北浦少年少女合唱団

まぶしい光に輝く天使の歌声！

’96夏 可愛い妖精たちがやって来る。

●日時	8月6日(火) 午後6時30分開場 午後7時開演
●場所	北浦村文化会館
●入場料	大人 前売 2,500円 当日 3,000円 (全席自由) 子供(中学生まで) 前売 1,500円 当日 2,000円
●主催	きたうら村546こんさあと
●後援	北浦村・北浦村教育委員会・北浦村商工会・北浦村文化協会 北浦村鉄頭会議・北浦国際交流協会・北浦ふるさと塾
	お問い合わせは 関川(☎5-2098)・譜久島(☎5-2462)まで。

8月13日(火)〜16日(金)
北浦村中央公民館は
臨時休館いたします

文学講演会

「おはなしは心の食事」開催される

六月一日に中央公民館において文学講演会が開催されました。これは北浦村読書団体連合会と中央公民館が主催したものです。講師の浜島代志子さんは「機械的な教育ではなく、生きた人間を育てたい」という考えのもと「人間は言葉で考える動物なので、言葉が豊かなほど心情や人格が育っていく、親の言葉が貧乏すれば子供も感性も貧乏になる」と話しました。

また、今は「親子の会話が減っている。少ない会話の中でも『〜してはいけない』という禁止が九割」になっているそうです。これでは指示を待つ人間になってしまい、自分で人生を考える人間にならないとのことです。子供が豊かな人間に育つために「十歳までは心と体を抱きしめて」あげ、「一日一回は話をしたり本を読んだり本をあげる時間を持つて下さい」と話しました。

1日に1回はテレビを消し、家族でお話を



北浦中央公民館図書室

新着図書

4/20〜5/20

◆一般図書 全175冊

*争いの木の下で[上下](丸山健二) *生きるってすばらしい[全20巻] *炎都[上下](加賀乙彦) *親子で遊び隊[Vol.1.4] *回想電車(赤川次郎) *榎の木のテーブル(林京子) *グランドクロス・ベイベー(栗本薫) *心に花咲くちょっといい話(柳宗民) *新諸国奇談(阿刀田高) *病気がわかる体の手引き *風塵抄・2(司馬遼太郎) *水鳥の関[上下](平岩弓枝) *みずむし(西本勝太郎) *みどりの光芒(小嵐九郎) *やさしい関係(藤堂志津子) *余燼[上下] *理由はわからない(藤田克宜) *終(永六輔) *カードミステリー―失われた魔法の島(ヨークタイン・ゴルデン) *こころ・と・からだ(五木寛之) *7月7日、晴れ(戸田山雅司) *蜃気楼(内田康夫) *Sly(吉本ばなな) *ダンベル先生のこれ1冊でダイエット(鈴木正成) *中高齢のための登山学Q&A *鶴の恩がえし(片山鶴太郎) *ふたり(唐沢寿明) *野菜づくり12か月 *渡る世間は鬼ばかり(橋田寿賀子) 他

◆児童図書 全27冊

*王さまくじらのズボン(寺村輝夫) *おてがみもらったへんじかいた(森山京) *手をあげた子あげなかった子(鈴木喜代春) *ぼくのプチブルてき生活(北山葉子) 他

◆絵本 全24冊

*うそつきのつき(内田麟太郎) *おべんとうのえんそく(矢玉四郎) *きょうはあさからはがいたい(熊田勇) *ねこのき(長山弘) *かいぞくのうた(和田誠) 他

◆ビデオ 全23巻

*ラブレター*ナイトヘッド*クレヨンしんちゃん/雲黒斎の野望*ドラえもん/のび太の創世日記*マディソン郡の橋*フォレスト・ガンブ/一期一会*魔女の宅急便 他

◆CD 全13巻

*Your Song(エルトン・ジョン) *若葉のころ(ピー・ジーズ) *Vanity Fair(松田聖子) *Only Good Summer(チューブ) *LOVE&SMILE(カズン) 他

村の石仏・石塔③ 如来



寛文7年(1667年) 山田 福相院

如来とは、衆生を教え導くことから名づけられ、修業を完成した人、真理を体得した(真如・如来)という意味です。

仏像としては釈迦如来、大日如来、阿弥陀如来、薬師如来、阿閼(あしゆく)如来の五如来として信仰されています。その中でも釈迦、大日、阿弥陀、薬師如来が有名です。それぞれの脇侍として金剛界二人を入れた三尊形式が多くなっています。その他には金剛五仏、胎藏界五仏、四方仏、十三仏に混じっている場合もあります。

像容の特色としては、簡単な衣だけで身に飾りをつけていないことがあげられます。ただし、大日如来だけは宝冠をつけ、飾りを身につけています。また、眉には白毫(びやくこう)と呼ばれる白い毛が丸い形で生えています。

「北浦村の石仏・石塔」

(北浦村教育委員会)より



第28回 レディースバレーボール大会

6月9日にレディースバレーボール大会が開催され、ブロックリーグを勝ち進んだチームが北浦村体育館で決勝トーナメントを行いました。

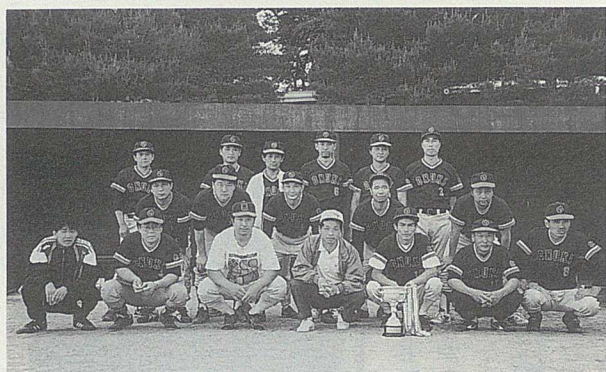
優勝の津澄マリオクラブは郡民体育大会と県民スポーツレクリエーション祭へ、準優勝のみっくすジャムは郡民体育大会へ出場ができます。

優勝 津澄マリオクラブ
準優勝 みっくすジャム
第3位 北浦中PTA・津澄ピーチクラブ

第22回 村内バドミントン大会

6月23日に北浦村体育館において村内バドミントン大会が開催されました。熱戦の末、次の方々が入賞しました。

- ◆男子シングルス
 - 優勝 仲居 善仁さん
 - 準優勝 大和田幸二さん
 - 第3位 遠田 慎一さん
- ◆女子シングルス
 - 優勝 仲居まゆみさん
 - 準優勝 大和田由美子さん
 - 第3位 長久保未来さん
- ◆男子ダブルス
 - 優勝 仲居・金長組
 - 準優勝 小沢・遠田組
 - 第3位 大和田・関根組
- ◆女子ダブルス
 - 優勝 仲居・宮内組
 - 準優勝 大和田・高正（真）組
 - 第3位 長久保・高正（津）組
- ◆混合ダブルス
 - 優勝 稲本秋男・大和田由美子組
 - 準優勝 大和田幸二・高正真由美組
 - 第3位 庄司一哉・長久保未来組



第30回 お父さんソフトボール大会

6月9日に第2グラウンドにおいてお父さんソフトボール大会が開催されました。それぞれのブロックを勝ち進んだチーム同士で決勝トーナメントが行われ、小貫Aチームが優勝しました。

優勝の小貫Aチームは茨城県お父さんソフトボール大会、郡民体育大会、県民スポーツレクリエーション祭へ、準優勝の武田Aチームは郡民体育大会へ出場することになります。

優勝 小貫A 準優勝 武田A
第3位 三和・北浦中B



第3回 村内スポーツ少年団 サッカー交流大会

- ◆高学年の部優勝
津澄サッカースポーツ少年団
 - ◆低学年の部優勝
津澄サッカースポーツ少年団
- なお、高学年の部優勝チームは8月に行われる県大会の出場権を得ました。

- ◆型の部
 - ・初級
 - 優勝 河野圭太さん
 - 準優勝 高野与一さん
 - 第3位 六笠知恵美さん
 - ・中級
 - 優勝 小林達也さん
 - 準優勝 渋谷直人さん
 - 第3位 郡司信彦さん
 - ・上級
 - 優勝 六笠竹治さん
 - 準優勝 鬼澤優蔵さん
 - 第3位 島田朋美さん
- ◆敢闘賞
西谷直記さん・島田朋美さん



たばこ耕作奨励会

北浦村たばこ耕作振興協議会総会並びに奨励会が、5月31日に役場会議室で開催されました。奨励会では平成7年度において優秀な総代区、個人に賞が贈られました。

- ◆団体の部
 - ・北浦村たばこ耕作奨励会長賞 稲平総代区
 - ・茨城県たばこ耕作組合長賞 六十塚総代区
 - ・銚田原料事務所長賞 行戸総代区
- ◆個人の部
 - ・茨城県たばこ耕作組合長賞 柏原 晃さん（南高岡）
 - ・銚田原料事務所長賞 斎藤和也さん（六十塚）
 - ・村長賞 水野義貞さん（稲平）
 - ・議長賞 斎藤嘉一さん（稲ヶ谷）
 - ・特別賞 山崎和久さん（稲ヶ谷）
- ◆立毛品評会
 - ・北浦村たばこ耕作協議会長賞
 - 柏原 薫さん（南高岡） 石間信一さん（繁昌）
 - 横瀬三郎さん（山田） 金井三男さん（依田谷）
 - 斎藤一彦さん（六十塚）



第19回 さつき展

6月7日から12日まで開催されたさつき展には19名が出品し、38点の作品が華やかさを競いました。

今年の競技花は「華宝」で、優秀賞は次の方々です。
根田敏夫さん（吉川） 島田静夫さん（三和）
沼里鶴寿さん（吉川） 海老原廣さん（内宿）
関川ひでさん（繁昌）



メロン刈りで都市住民と交流

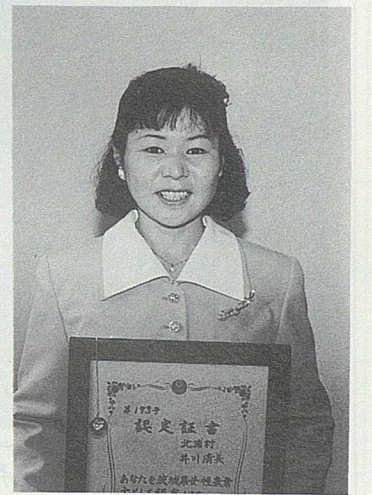
6月はメロンの最盛期。それぞれの集荷所にはアンデス、赤肉メロンなどが山積みとなります。味ならどこにも負けない「北浦メロン」を使って、都市住民との交流を行いました。企画は鉾頭会議農業活性化委員会、実施はメロン研究会で、同時に夕市推進委員会の協力をもらい、6日間でのべ300人のお客さんが訪れました。夕市会場ではメロンの試食や新鮮野菜の直売、ハウスでは好きなメロンを1つお土産にできるとあって大好評でした。「来年もぜひ企画して下さい」バスの窓から手を振りながら、そんな声が聞かれました。



行戸シルバー会が調理実習

6月14日中央公民館において、行戸シルバー会が調理実習を行いました。これは生きがいや健康づくりを目的としたものです。男性の方も慣れない包丁を片手に、かぼちゃを相手に悪戦苦闘する場面もありました。メニューはかつおの竜田揚げ、かぼちゃのいとし煮、もやしのナムル、うしお汁です。料理は女性の仕事というのは過去の慣習で、夫婦そろって料理を楽しむというのが、老若を問わずこれからの生活様式のようなのです。

婦人農業経営士に 井川 清美さん



平成8年度に北浦村に二人めの女性農業士が誕生しました。内宿の井川清美さんです。井川さんは静岡県御殿場の出身で、未知の土地「北浦村」に嫁いで来ました。もちろん農業の経験はありませんでした。最初は地域に慣れること、初めての農作業を覚えるなど

大変だったようです。しかし、持ち前の「がんばり屋」で、今ではすっかり地域の顔となりました。井川さんは仲間づくりに積極的で、村の農業女性で組織する昂や北浦みづば婦人部で活躍しています。また、自分の経営では楽しく仕事をしたいと考えています。たとえば、明るい雰囲気の中で仕事ができるように作業場を改造しました。そうすることで、作業効率も上がると井川さんは言います。現在は夫の英雄さんとお父さんの三人で、チンゲンサイの周年栽培を中心とした農業を営んでいる井川さん。今後は夫の理解と家族の協力により、女性リーダーとして活躍されることを期待します。

ホームヘルパーに 矢口 元子さん



今年6月から、村として3人めのホームヘルパーに矢口元子さんがなり、在宅福祉サ―ビスを担当することになりました。ホームヘルパーとは、身体上や精神上的の障害があつて日常生活がむずかしい方などの世話をすることです。健全で安らかな生活がで

きるように身体介護サ―ビスや、家事援助を行います。具体的には、身体介護として食事、排泄、衣服着脱、入浴の介護、身体清拭、洗髪、通院介助などを行います。また家事の援助として食事の世話、衣服の洗濯や補修、掃除、買物など行います。その他に生活や身上、介護に関する相談にも応じます。こうしたお世話を週一〜三回程度、一回二時間程度行うのです。矢口さんは「細かい仕事の内容は、先輩に聞きながら早く覚えたい。これからは高齢者社会が進み、ホームヘルパーの役割が重要になってくるでしょう。自分なりに精一杯がんばりたいと思います」と話していました。

心身障害者に

タクシー料金を助成します

村では、平成八年四月から重度の心身障害者がタクシーを利用した場合、初乗り部分の料金を助成することになりました。

目的

重度心身障害者が医療機関への通院などを使う交通費の一部を助成して、福祉の増進を図ります。

①村内に住んでいる方で、身体障害者手帳の一級または二級の方。ただし、人工透析のために通院している身体障害者は除きます。②村内に住んでいる方で、養育手帳Aの方。またはAと判断された方。

助成額

①タクシー代（中型車）の初乗り運賃から一割を減じた額です。現在の初乗り料金は六五〇円です。②助成の回数は、一年度につき十二回を限度とします。③利用券の使用は、一回の乗車につき一枚です。

②乗車しようとする時に、利用券に手帳番号、氏名等を記入して運転者に提出して下さい。

③利用券と一緒に身体障害者手帳を提示して下さい。

申請は役場福祉課で助成を受けるには「福祉タクシー利用券交付申請書」を提出しなければなりません。申請書は役場福祉課にあります。その際身体障害者手帳、印鑑を必ずご持参下さい。

利用できるタクシー

北浦タクシー（☎五二二三）
出久根タクシー（☎五二二五）

くわしくは北浦村身体障害者福祉協議会の地区の役員、または役場福祉課まで。

社会を明るくする運動

7月1日〜31日

ふれあいと
対話が築く
明るい社会



「社会を明るくする運動」は、すべての国民が犯罪の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪のない明るい社会を築こうとする全国的な運動です。この運動は今年で四十六回を迎えます。

今回は重点目標を「少年の非行防止と良心の援助のため、地域住民の理解と参加を求める」としました。期間中に保護司、更生保護婦人会等が中心となつてキャンペーン、募金活動、施設訪問、ミニ集会などを実施する予定です。

無利子の育成資金を貸付

交通遺児に愛の資金を

0歳から中学（義務教育）を卒業するまでの交通遺児に、育成資金の貸付けを行っています。これは法律に基づき、国が資金を出して設立した自動車事故対策センターが行っているものです。国の資金を無利子で貸付けますので、どうぞご利用下さい。

次のいずれか一つに該当すれば、貸付けが受けられます。

- ①生活保護を受けている。
- ②生活保護を必要とする状態にある。
- ③所得税を納めていない（非課税）。
- ④市町村税を納めていない（非課税）。
- ⑤市町村民税の均等割だけを納めている。
- ⑥国民年金の保険料を免除されている。
- ⑦児童扶養手当の支給を受けている。
- ⑧世帯更生資金の貸付けを受けている。
- ⑨教育委員会から就学援助を受けている。

貸付金額は、児童一名につき一時金として15万1千円、毎月1万9千円です。

また小・中学校への入学の際に、入学支度金として4万3千円が貸付けられます。返還は中学校卒業から一年間据え置き、二十年間で返還することになります。ただし高校・大学に進学した場合は、卒業まで猶予されます。また、災害や病気などで返還がむずかしくなった時は猶予、または免除される場合もあります。くわしくは政府出資法人 自動車事故対策センター茨城支所（☎〇二九・三二六・〇五九）まで

北浦村・鉾田町・旭村・大洋村の 市内局番が2ケタに変わります

（平成9年1月1日（元旦）午前2時から）



◎ 電話機やファックスなどのワンタッチダイヤル、短縮ダイヤルをご利用されている場合は再登録（0291地域では3△-□□□□、0291地域以外では0291-3△-□□□□）が必要です。
◎ 現在お使いの電話機やファックスなどの機器は、そのままご利用になれます。

NHK学園の通信講座

放送を利用して学ぶという画期的なNHK学園は、30年余の歴史を持って通信教育を実施しており、長い指導経験と放送番組作りのノウハウを生かした独自の学園システムをとっています。

現在、俳句・短歌・書道・文学・写真・絵画・語学、それに資格の取れる講座など、趣味と教養の81講座200コースを開講しており、あらゆるレベルのコースが用意されていて、受講者は25万人に達しています。

受講の申込は随時受付けていますので、この自己を高める講座にチャレンジしてはいかがでしょうか。くわしい内容をご希望の方は、資料をお送りします（無料）。

◆資料請求先

〒186 国立市富士見台
NHK学園 8E01係
(☎0425-72-3151)

夏休み子どもの健康フェア

県健康科学センターでは、子どもが自分の身体への関心を高め、よい生活習慣を身につけられるよう企画展を催します。

◆期 間

8月5日(月)～9日(金)
午前10時～午後3時

◆場 所

茨城県健康科学センター

◆心身の健康コーナー

目の錯覚、音の振動などの体験

◆足の健康コーナー

足の裏の健康チェックや足や靴についての相談など

◆歯の健康コーナー

口の中の細菌の検査や口臭チェック、歯に関するクイズなど

◆環境のコーナー

環境汚染の実験、環境パソコンゲーム、県の河川に住む魚の標本

◆手作りコーナー

切り絵で作るうちわなど

このほかに、いろいろあります。

◆お問い合わせ

茨城県健康科学センター
水戸市笠原町不動山993-2
(☎029-243-4171)

国の事業ローン・教育ローン

国民金融公庫では中小企業のための融資や、大学や高校などに在学、進学されるご家庭のためのローンを取り扱っています。

国^の事業ローン

◆普通貸付

融 資 額 4,800万円以内
融 資 期 間 運転資金 5年以内
設備資金 10年以内
金 利 3.6%

◆経営改善貸付

融 資 額 550万円以内
融 資 期 間 運転資金 4年以内
設備資金 6年以内
金 利 3.6%

◆経営多角化ローン

融 資 額 7,200万円以内
融 資 期 間 設備資金 20年以内
金 利 3.6～3.9%

◆特別貸付

融 資 額 7,200万円以内
融 資 期 間 13～20年以内
金 利 3.6%

※重複利用は最高1億2,000万円

国^の教育ローン

◆融 資 額

学生等1人につき 150万円以内

◆返済期間 8年以内

◆据置期間 在学期間（最長4年）

◆保 証 財教育資金融資保証金または保証人

◆金 利 3.4%

お問い合わせは、国民金融公庫土浦支店（☎0298-22-4141）まで

事業所・企業統計調査

を実施します

10月1日現在で、全国一斉に事業所・企業統計調査が実施されます。これは、全国すべての事業所を対象とした調査です。

調査の結果は事業主の皆さんの経営指標、あるいは行政の地域づくりの道しるべとして大変貴重な資料となります。



9月下旬から調査員が調査票の記入をお願いに訪問しますので、ご協力をお願いします。

建設業退職金共済制度

この制度は、国が建設業の労働福祉対策の一環として創設したもので、建設業界で働く限り事業所を変わっても期間全部を通算して退職金を支払うという制度です。

◆1日 260円の掛金で、退職金は次のとおりです。

2年	131,040円	この早見表は掛金納付252日分を1年と換算して計算したものです
5年	382,758円	
10年	1,006,244円	
20年	2,958,870円	
30年	6,359,620円	
35年	8,963,876円	

◆お問い合わせ

建設業退職金共済組合茨城支部
(☎029-221-5126)

過労死等無料相談

勤労災年金福祉協会茨城労災年金相談室では、労働省の委託を受けて補償に関する各種の相談業務を行っています。過労死等の認定基準の改定を機に、平成8年6月から医師等専門家の協力を得て窓口やフリーダイヤルによる相談を行っています。相談無料、秘密厳守。

◆日 時 毎月第2月曜日

◆場 所

勤労災年金福祉協会 茨城労災年金相談室（水戸市三の丸1-4-73

☎0120-603114）

◆後 援

労働省、茨城労働基準局

フリーフリー・テレフォン

勤21世紀職業財団茨城事務所では働く方のために育児や介護、家事に関する相談を電話で受付けています。「ベビーシッターを利用したい」「介護が必要なので専門の施設を利用したい」「家事が大変」など、育児・家事に関する相談について保育所や福祉施設、家事代行業者等公共のものから民間まで、情報を無料で提供します。お気軽にどうぞ。

◆受付時間

月～金曜日（祝日除く）

午前9時30分～午後4時30分

◆電話番号 029-226-2020